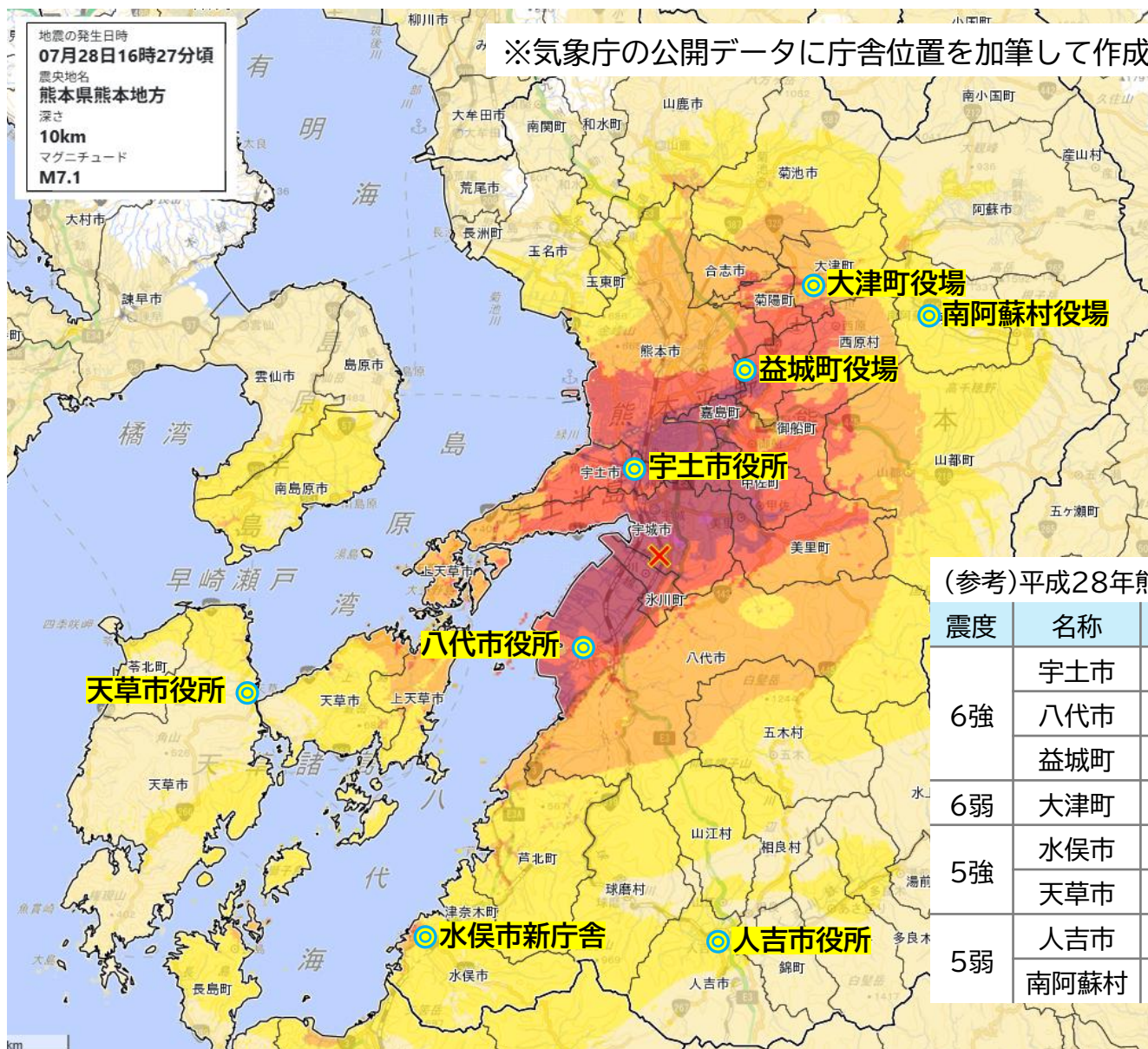


【推定震度分布図と平成28年熊本地震以後に完成した市町村庁舎】



(参考)平成28年熊本地震以後に完成した市町村庁舎

震度	名称	竣工年	構造形式等	
6強	宇土市	2023年	免震	地上4階 RC
	八代市	2022年	免震	地上7階地下1階 S造
	益城町	2023年	免震	地上4階 RC造一部SRC造S造
6弱	大津町	2021年	免震	地上4階 RC造一部S造
5強	水俣市	2021年	免震	地上4階地下1階 S造
	天草市	2019年	免震	地上4階 RC造
5弱	人吉市	2022年	免震	地上5階 RC一部S
	南阿蘇村	2017年	耐震	地上2階地下1階 RC造

【市町村庁舎の被害状況】令和8年8月6日付建設通信新聞より抜粋

平成28年熊本地震以後に完成した庁舎※では、八代市を除き大きな被害は発生していない

熊本県内の8市町村

新庁舎が耐震性能発揮

八代市 免震装置を専門調査

2016年熊本地震以後に完成した熊本県内8市町村の庁舎が耐震性能を発揮している。26年熊本地震の発生から1週間が経過する現在までに大規模な構造被害や行政機能の停止は確認されていない。免震構造を採用した宇土市や益城町といった市町だけでなく、耐震構造を採用した南阿蘇村でも災害対応を継続している。16年熊本地震を教訓に進められた庁舎整備の効果を検証する材料となりそうだ。

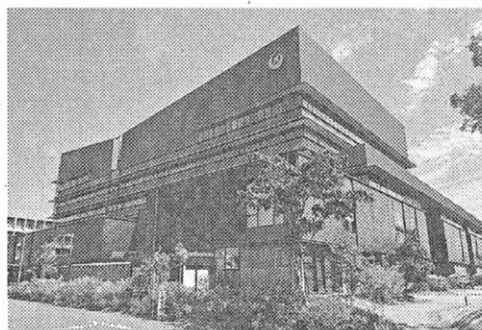
＝1面参照

熊本地震

震度6強を記録した宇土市、益城町、震度6弱の天津町、震度5強の水俣市、天草市、震度5弱だった人吉市、南阿蘇村の7自治体は、いずれも現時点で庁舎への大きな被害が確認されていない。

同じく震度6強を記録した八代市では、本庁舎地下の免震ダンパーの一部にずれが確認されたものの、職員は庁舎内で執務を続け、安全確認が済んだ会議室を市民向けに開放するなど、防災拠点としての機能を維持している。

八代市によると、先週末か



八代市庁舎（2日撮影）

たしたと認識しており、調査

結果を踏まえ、ダンパーの交換または機能移転を含めた対応を検討する。

構造形式の内訳をみると、

宇土市、人吉市、水俣市、天草市、益城町、天津町は基礎免震構造、八代市は地下柱頭免震構造、水俣市は支柱（1階柱頭）免震構造、南阿蘇村はPCaPC（プレキャスト・プレストレストコンクリート）・RC造を採用した。

今回の地震は16年熊本地震とは震源域が異なり、被害を単純比較できない。ただ、熊本地震後に整備された庁舎が災害対応拠点として機能を維持したことは、10年間の耐震・免震化の成果を検証する重

要な材料となる。

一方で、熊本地震前に完成した庁舎では非構造部材を中心とした被害も確認されている。熊本市本庁舎では天井パネルの落下や水漏れ、エレベーターの停止といった設備被害が発生し、一部執務室の閉鎖を余儀なくされるなど、災害対応拠点としての機能維持に課題を残した。

今後は、免震装置の詳細な点検や設備機能、BCP（業務継続計画）の運用状況を含めた検証が求められる。こうした結果は、県内自治体の庁舎整備の在り方や、建て替え計画をまさに議論している熊本市にも影響を与える可能性がある。

※新聞記事は引用の目的に必要な範囲でレイアウトを一部変更しています。また、赤線は説明のため本資料で追加したものです。

【市町村庁舎の被害状況】 令和8年熊本地震に係る第7回災害対策本部会資料より抜粋(令和8年7月31日(金)9:30)



令和 8 年熊本地震に係る
第 7 回災害対策本部会議

【総務部】

R8.7.31 (金) 7 : 3 0 時点

被害状況

【市町村庁舎の被害】

(震度 7)

- ・ 宇城市：庁舎一階・二階の窓ガラス破損、庁舎周辺の道路にヒビ・段差※当面の窓口閉鎖を市HPで周知
- ・ 氷川町：停電は復旧、棚から書類が落ち散乱

(震度 6 強)

- ・ 宇土市：庁舎に大きな被害なし（停電は復旧）
- ・ 美里町（中央庁舎）：庁舎横の倉庫内に設置していた災害対策本部を中央庁舎内に移設。停電は復旧。
- ・ 八代市：職員は庁舎内で執務。
安全が確認できた一部の会議室は市民に開放しているが、引き続き庁舎全体の安全性を確認中。
- ・ 益城町：庁舎に大きな被害なし（停電は復旧）
- ・ 嘉島町：庁舎の渡り廊下を閉鎖

(震度 6 弱)

- ・ 御船町：天井パネル複数落下、蛍光灯複数落下、壁が倒れた箇所あり（庁舎には入れる）
 - ・ 上天草市：天井の一部が破損（大きな被害なし）
- ※その他の市町村（震度 5 強以上）は現時点で庁舎に被害なし

※赤線は説明のため本資料で追加したものです。

(参考)平成28年熊本地震以後に完成した市町村庁舎

震度	名称	竣工年	構造形式等	
6強	宇土市	2023年	免震	地上4階 RC
	八代市	2022年	免震	地上7階地下1階 S造
	益城町	2023年	免震	地上4階 RC造一部SRC造S造
6弱	大津町	2021年	免震	地上4階 RC造一部S造

震度	名称	竣工年	構造形式等	
5強	水俣市	2021年	免震	地上4階地下1階 S造
	天草市	2019年	免震	地上4階 RC造
5弱	人吉市	2022年	免震	地上5階 RC一部S
	南阿蘇村	2017年	耐震	地上2階地下1階 RC造

【八代市庁舎被害状況】八代市災害対策本部会議資料より抜粋(令和8年8月18日(火)15:00)

地階に設置の免震装置のずれ・潰れのほか、配管破損などインフラ設備の損傷が発生



【7月28日 震度6強発生】被害状況報告

【財務対策班】

令和8年8月18日（火）15：00時点

1 対応状況

本庁舎被害状況 → 発災時と変更なし

地階：壁・天井の一部崩落、配管の破損による水漏れ、免振装置のずれ・潰れ

1階：庁舎入り口で床がめくれている

階段：壁亀裂

各階：ひずみのため、ドアの開閉が困難

(庁舎インフラ)

電気：問題なし

ガス：配管破損の可能性があるので使用不可 → 配管に異常なしを確認 → 九州ガスの復旧待ち

上水道：配管破損の可能性があるので使用不可 → 庁舎西側：8/8～全て使用可能

庁舎東側：8/10～全て使用可能

エアコン：全館空調は、ガス・水道の供給が止まっているため使用不可 → 水道は復旧済み、ガスの供給が未定

トイレ：東側1階のみ使用可能

東側2～6階は、使用不可 → 8/10～全て使用可能（手洗いも可能）

西側トイレは全て使用不可 → 8/8～全て使用可能（手洗いも可能）

エスカレーター：使用可能。1階ロビーの高天井の点検後再開予定（8/10～稼働予定） → 8/10から稼働

エレベーター：東側EV→使用中

西側EV→レールの歪み補修及び免震装置の補強が必要。→ 再開時期未定

(庁舎内安全確認)

1・2階天井・壁：8/8（土）多目的ホール・1階ロビー天井・壁の安全点検を実施予定 → 8/8点検実施、安全確認済

北側玄関：8/5 入口のジョイントカバーを固定し転倒防止措置を実施。

南側通路：8/4 通路ひさしの基礎が一部損傷しているため、転倒防止措置を実施。

守衛室前：8/6 入口の転倒防止柵を設置。

(その他)

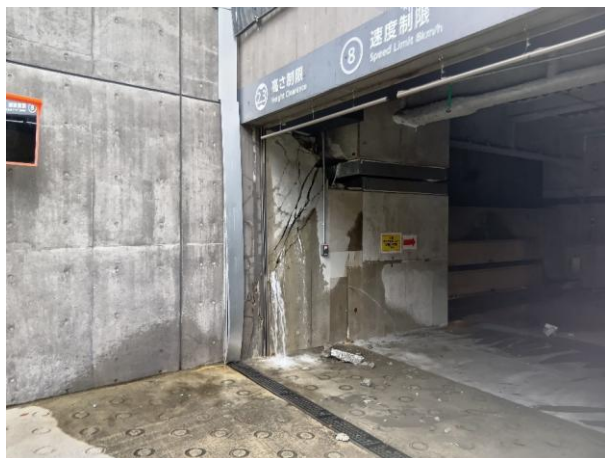
7/30 屋外に仮設トイレ10基を設置（北側喫煙所横）

7/31 市民の安全確保のため、吹き抜けの下部にあたる1階部分に通行禁止エリアを設定

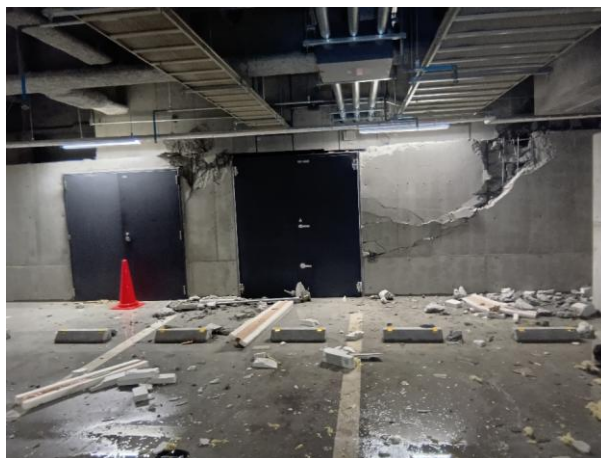
8/1 日中、自動車でも本庁舎駐車場に避難されている方むけに、市民交流エリアをクーリングシェルターとして開放

8/6 移動式トイレカー北側玄関前に3台設置（岡山県奈義町より支援）→ 8/10 鏡コミセンに2台、鏡中に1台を移動

【八代市庁舎被害状況】八代市より提供



地下駐車場出入口



地下駐車場西側壁



免震装置



売店横天井



ATM機上部壁



3階西側階段室

【八代市庁舎被害状況】八代市より提供

専門家等による調査の結果、「本震程度の地震が発生しても直ちに崩壊するおそれはない」と判断



【7月28日 震度6強発生】被害状況報告

【財務対策班】

令和8年8月18日（火）15：00時点

1 対応状況

- ・被害が大きい地階免震装置の現地確認を実施中
 - 7/29 午前：前田建設工業（施工業者）に現地確認
 - 午後：久米設計（設計・施工管理業者）と前田建設工業により現地確認
 - 7/30 午前：久米設計（本社）及び前田建設工業（熊本営業所）による現地確認
 - 午後：国土技術政策総合研究所（国土交通省所管）による現地確認
 - 7/31 午後：一般社団法人日本免震構造協会（元・国土交通省住宅局所管の公益法人）、国土技術政策総合研究所等による現地確認
- ※上記の専門家の意見及び調査結果を参考に、本庁舎の機能移転を判断したい。

○本庁舎の現状、方針、今後の対応について

【現状】

- ・免震装置については、一部が損傷しているものの、現在も上部建物を支持している。
- ・本庁舎の上部建物は一定の強度を有しており、本震程度（震度6強）の地震が発生しても、直ちに崩壊するおそれはない
- ・損傷箇所の応急補修を行うことで、さらに耐震強度を向上できる。

【市としての方針】

・現状を踏まえ、災害対応を優先した復旧・復興を進める必要があることから、当面の間は建物の状態（損傷が進展しないこと）をモニタリングしつつ、安全性を高めるための応急補修を行いながら本庁舎を使用する。

【今後の対応】

- ・損傷箇所の応急補修を行い、建物の耐震性を高める。応急補修の期間は4から6か月程度掛かる見込み。
- ・最終的には、本復旧工事を実施することで、従前の耐震性能以上を確保する。本復旧の期間は、設計も含めると2年程度かかる見込み。

○寄附について

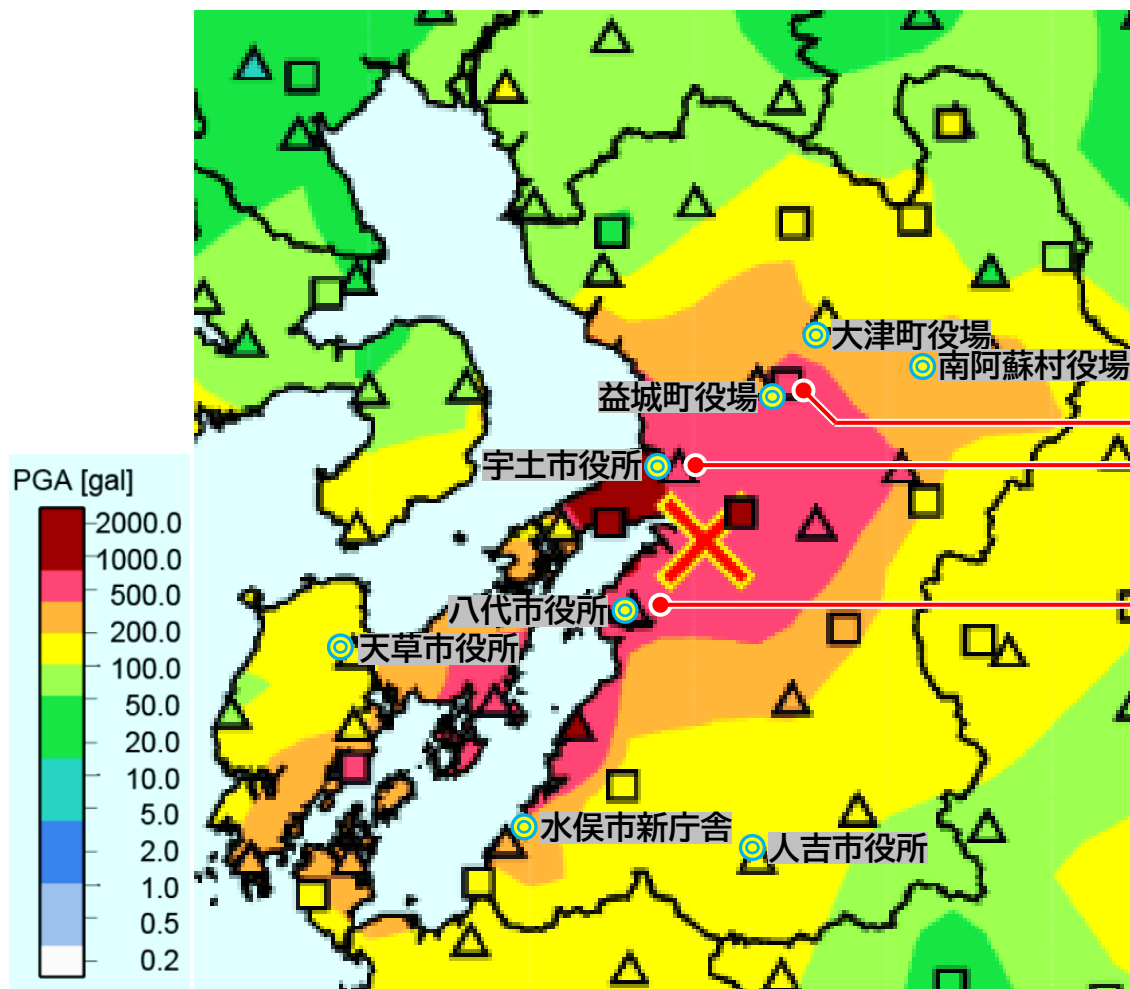
417件 53,988,256円 （8月18日現在）

前日から 17件 3,612,430円 増加

【地表最大加速度分布図と平成28年熊本地震以後に完成した市町村庁舎】

震源から一定の距離がある広い範囲において、大きな地表面加速度が観測※されている

※観測値は各観測点における記録であり、各庁舎の位置・地盤条件とは異なるため、参考値として整理したもの



地表での最大加速度の分布図

観測点最大加速度上位10件

	観測点名	最大 加速度	計測 震度	最大 速度
1	KiK-net三角(KMMH07)	1,667 gal	5.8	51 cm/s
2	K-NET田浦(KMM013)	952 gal	5.6	37 cm/s
3	KiK-net豊野(KMMH14)	864 gal	6.3	93 cm/s
4	KiK-net益城(KMMH16)	725 gal	6.1	82 cm/s
5	K-NET宇土(KMM008)	668 gal	6.0	71 cm/s
6	K-NET砥用(KMM011)	666 gal	5.7	38 cm/s
7	K-NET龍ヶ岳(KMM018)	582 gal	4.9	21 cm/s
8	K-NET八代(KMM012)	483 gal	5.7	131 cm/s
9	K-NET矢部(KMM009)	452 gal	4.9	17 cm/s
10	KiK-net新和(KMMH10)	441 gal	5.3	24 cm/s

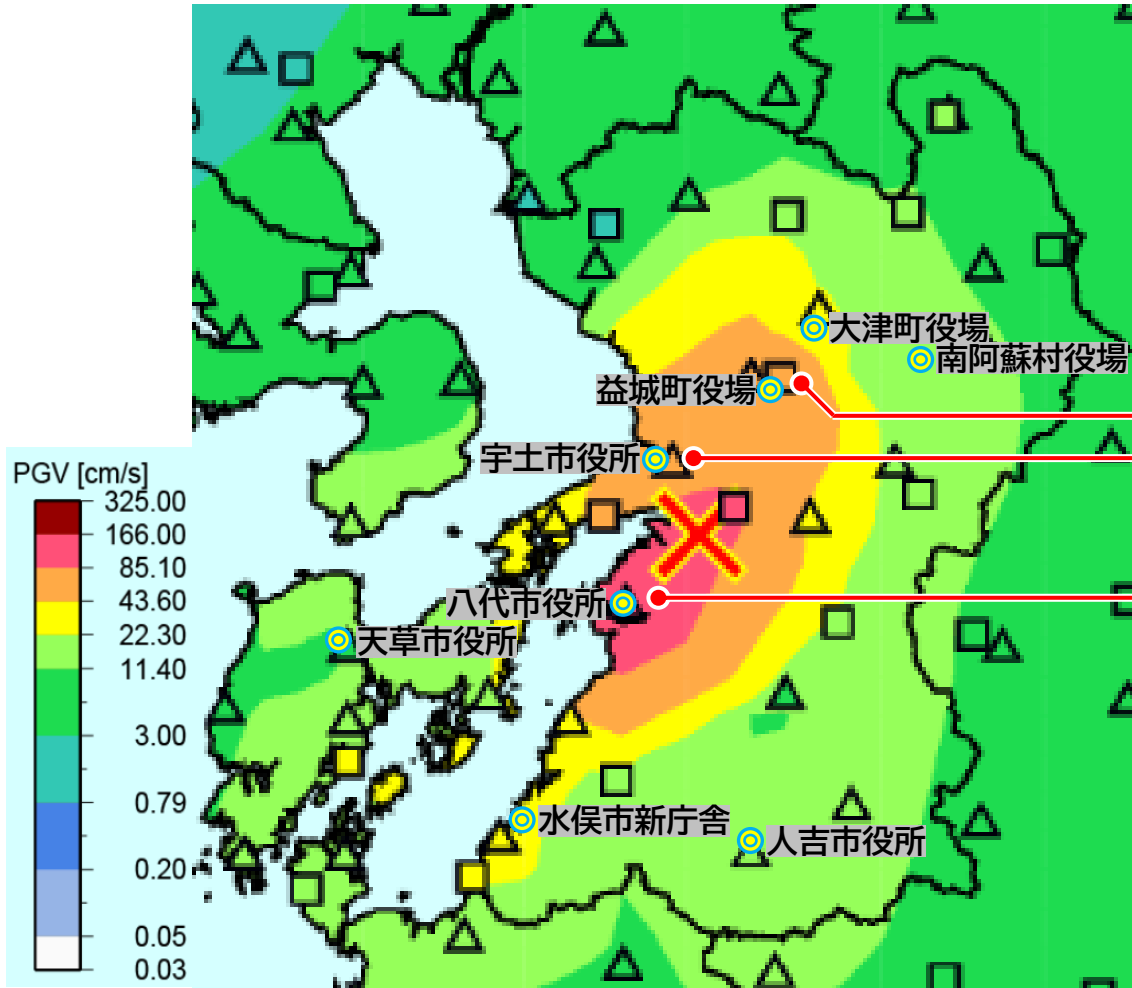
計測震度は気象庁告示に基づきトリガ波形全体より計算

※ 掲載資料は、防災科学技術研究所「2026年07月28日
令和8年熊本地震による強震動」の図に一部加筆したもの

【地表最大速度分布図と平成28年熊本地震以後に完成した市町村庁舎】

震源から一定の距離がある広い範囲において、大きな地表面速度が観測※されている

※観測値は各観測点における記録であり、各庁舎の位置・地盤条件とは異なるため、参考値として整理したもの



地表での最大速度の分布図

観測点最大加速度上位10件

	観測点名	最大 加速度	計測 震度	最大 速度
1	KiK-net三角(KMMH07)	1,667 gal	5.8	51 cm/s
2	K-NET田浦(KMM013)	952 gal	5.6	37 cm/s
3	KiK-net豊野(KMMH14)	864 gal	6.3	93 cm/s
4	KiK-net益城(KMMH16)	725 gal	6.1	82 cm/s
5	K-NET宇土(KMM008)	668 gal	6.0	71 cm/s
6	K-NET砥用(KMM011)	666 gal	5.7	38 cm/s
7	K-NET龍ヶ岳(KMM018)	582 gal	4.9	21 cm/s
8	K-NET八代(KMM012)	483 gal	5.7	131 cm/s
9	K-NET矢部(KMM009)	452 gal	4.9	17 cm/s
10	KiK-net新和(KMMH10)	441 gal	5.3	24 cm/s

計測震度は気象庁告示に基づきトリガ波形全体より計算

※ 掲載資料は、防災科学技術研究所「2026年07月28日
令和8年熊本地震による強震動」の図に一部加筆したもの